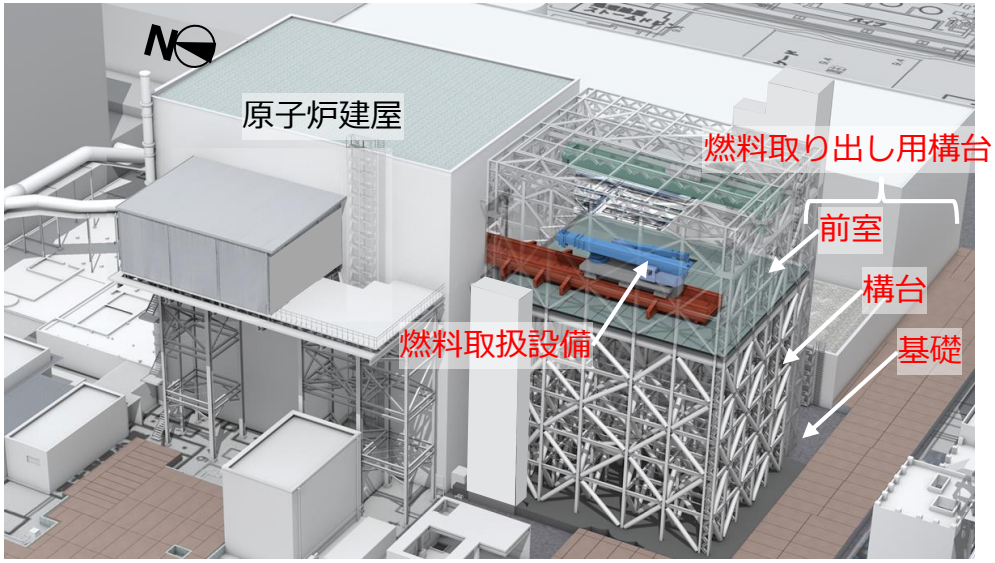
# 2号機　プール燃料取り出しの進捗について

2026年10月29日

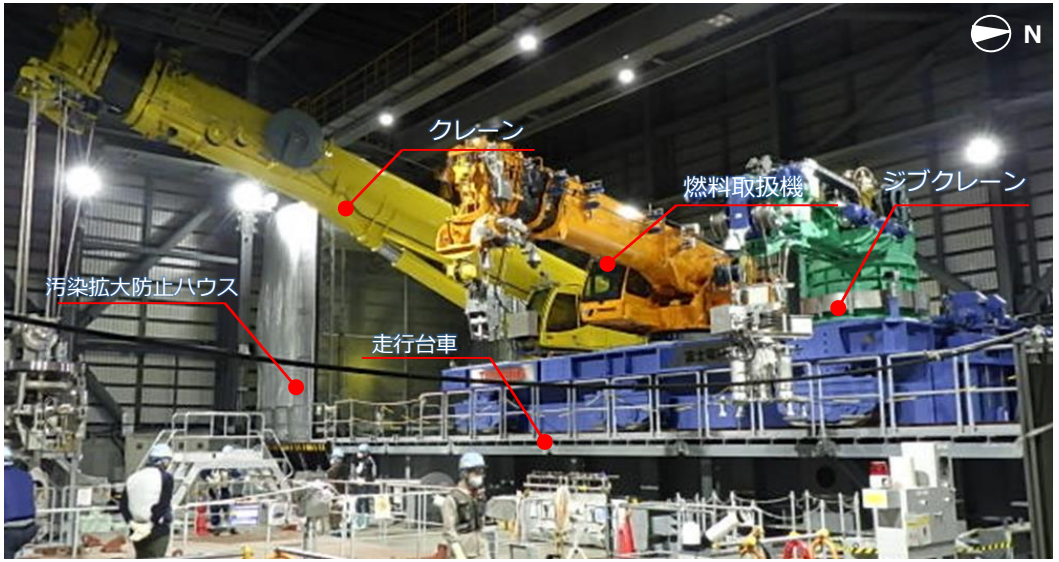
東京電力ホールディングス株式会社

# 1. ２号機　燃料取り出し作業の進捗について

- ２号機使用済燃料プールに615体の燃料が貯蔵されている。より安定した冷却・貯蔵が可能な共用プールに搬出するために燃料の取り出しを実施。
- 燃料取り出し作業は、原子炉建屋の南側に燃料取り出し用構台を設置し、原子炉建屋5FLの南側外壁小開口を通じて燃料および輸送容器を取り扱う。高線量環境の原子炉建屋5FLは遠隔操作で、低線量環境の燃料取り出し用構台内は有人作業で実施。
- ２号機の使用済燃料プールに貯蔵している燃料について、 2026年6月2日から取り出しを開始。
- 本日時点で新燃料含め126体の共用プールへの取り出しを完了。(全89回中18回完了)
- 10月19日から燃料取扱設備の点検や共用プールの空き容量確保作業のため中断。




燃料取り出し用構台概念図（鳥瞰図）

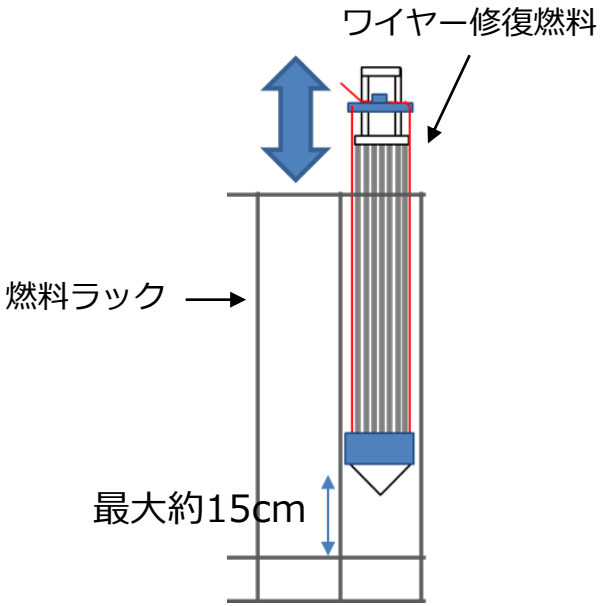



燃料取り出し用構台内燃料取扱設備全景
（撮影：2025年9月8日）

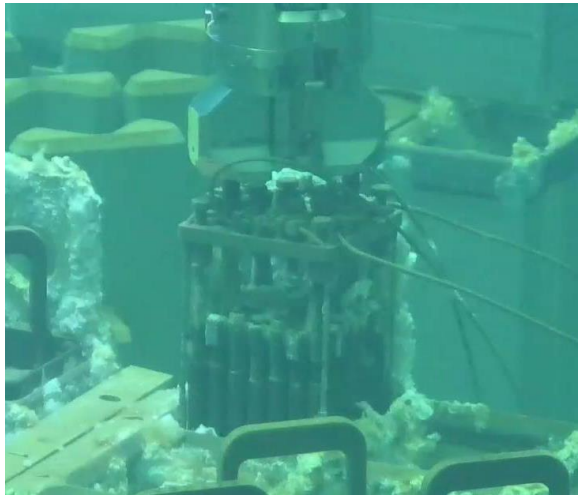
# 2．２号機　ワイヤー修復燃料吊り上げ試験について

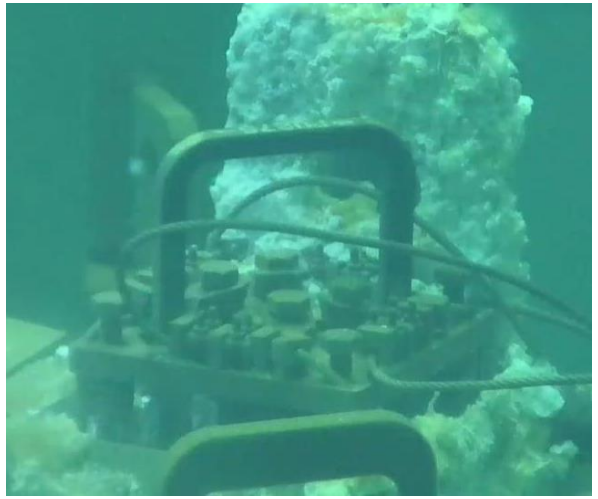
- ２号機の使用済燃料プールには1980年代からワイヤーで修復した燃料1体を貯蔵中※１。
- 水中カメラによる燃料上部確認では異常は見られず、また事故時の海水注入を踏まえ、同形状ワイヤーで腐食試験を実施し、十分な強度があることを確認済み。しかしながら、吊り上げ時にワイヤーの緩み等があった場合特別な対処が必要となるため、事前に問題なく吊り上げられるかの確認（吊り上げ試験）を計画。
- 8月18日に吊り上げ試験を実施し、ワイヤーの緩み等の異常は無く、問題なく吊り上げ可能であることを確認した。
- 試験結果を踏まえ、キャスクまで安全に移動できる機器を準備し、他の燃料取り出し後の最後に取り出す。

※１：詳細はP4参照



吊り上げ試験イメージ図

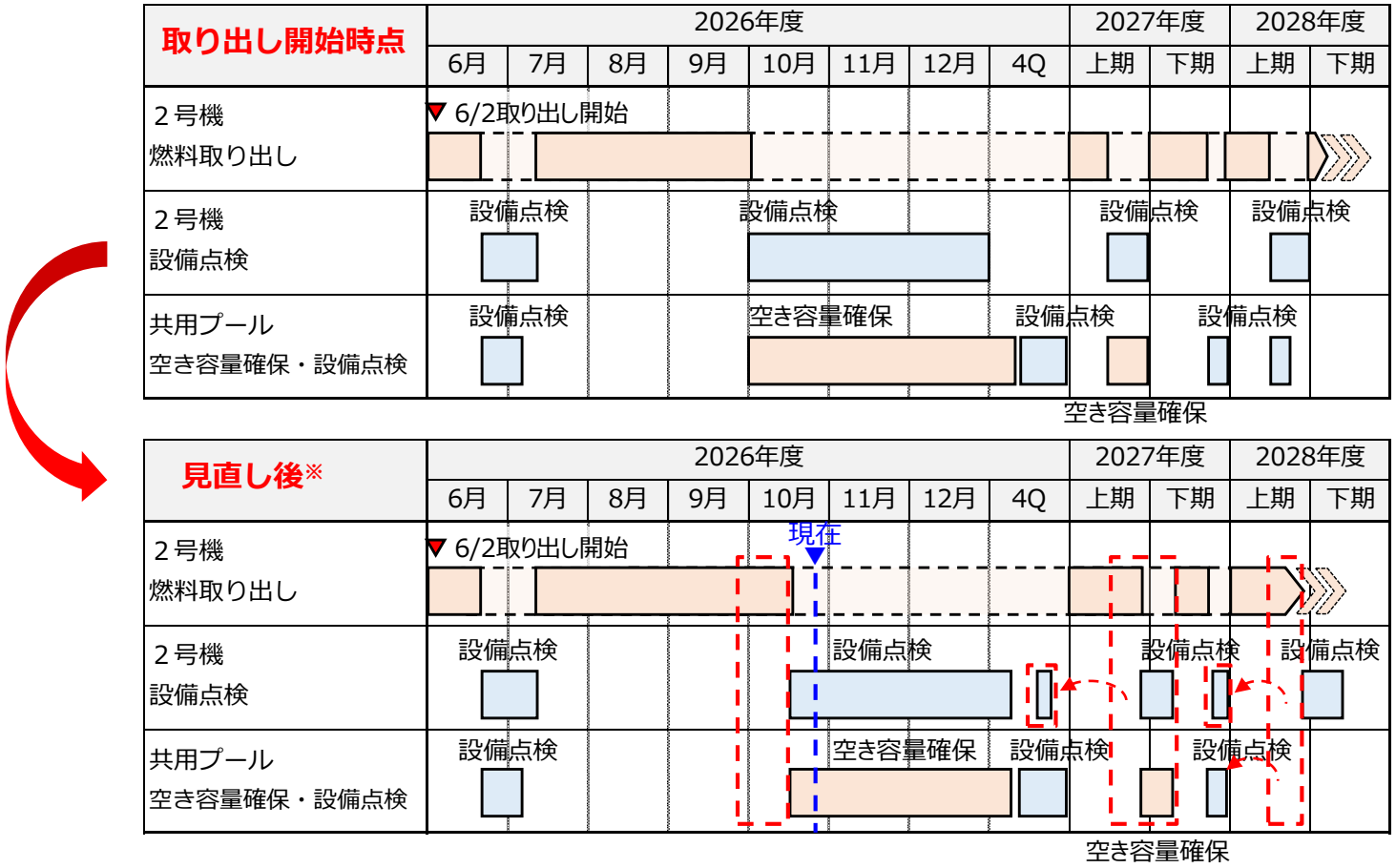

約15cm吊り上げ中
（撮影：2026年8月18日）


試験後の上部の状況
（撮影：2026年8月18日）

# 3. ２号機　燃料取り出しの今後のスケジュール

- ２号機の燃料取り出しは、2026年6月に作業を開始し、2028年度中の完了が目標。
- 燃料取り出しをより早く実施し、より早くリスク低減をさせるために、設備点検時期および共用プールの空き容量を確保する時期の見直しを実施。
- 燃料取り出しは、設備点検・空き容量確保のため半年程度中断し2027年春頃再開予定。
- 引き続き安全最優先に作業を進めてまいります。

2026年5月28日　廃炉・汚染水・処理水対策チーム会合資料工程（一部修正）




※:工程の進捗により変更する可能性有
※:工程は、準備・片付け作業期間含む

# 【参考】２号機に貯蔵している非健全燃料について

2020年7月2日廃炉・汚染水対策チーム
会合第79回事務局会議資料再掲

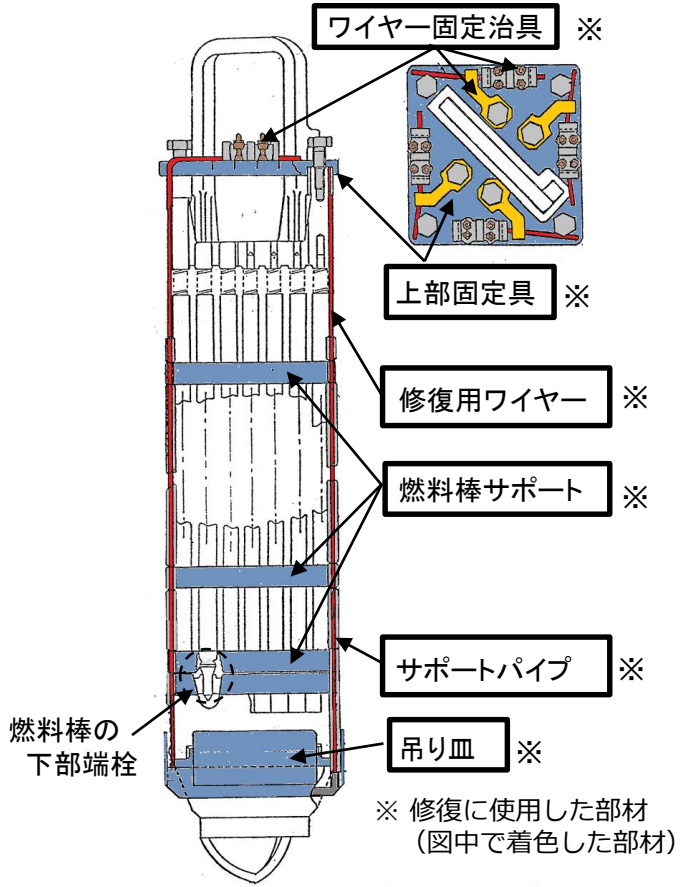
TEPCO

(ワイヤー修復燃料)

- 2号機SFP内には1981年に取扱中の落下により結合燃料棒*1の下部端栓*2が折損して吊上げ不可となり、翌年、燃料取扱機で取り扱いができるよう、ワイヤー等で一体化して修復した燃料集合体が１体保管されている。なお、当該燃料は外観点検等により被覆管の密封性には影響ないことが確認されている。
- 今回の調査で当該燃料の上部を観察し、水中ROVで視認できる範囲で修復用ワイヤーの断線や固定治具の外れがないことを確認した。
- 当該燃料の取扱い方法は、現在実施中の修復用ワイヤーの腐食試験結果を踏まえて検討するとともに、取扱い前には吊上げ試験を行い吊上げ可能であることを確認する予定。

*1 通常の燃料棒であるが、下部端栓にネジが切られており、下部タイプレートと結合している。燃料集合体を吊上げる際、自重を支える強度部材になっている。燃料集合体１体につき結合燃料棒は８本ある。

*2 燃料棒下端の部材であり、ペレットを内包するための金属の筒である被覆管と溶接されている。




ワイヤー修復燃料のイメージ図

(その他の非健全燃料)

- その他、2号機SFP内には震災前から被覆管にピンホール大の穴が空いた漏えい燃料と下部タイプレート側面の部材が変形した燃料が１体ずつ保管されている。これらについては通常の燃料と同様に燃料取扱機による取扱いが可能である。




ワイヤー修復燃料上部の様子